

## 平成31年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>①幼児児童生徒の発達段階と障害特性に応じた専門性の高い指導を研究、実践する。</p> <p>②保護者や地域、関係機関等との連携を強化し、安全で安心できる教育環境の整備を推進する。</p> <p>③自立と社会参加に向けた組織的で系統的なキャリア教育を推進する。</p> <p>④教育活動の一層の充実と教職員の多忙化解消に向けて業務の改善と効率化に取り組む。</p>		
類(档)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼稚部	身近な人に親しみを持ち、友達や先生と楽しく活動する中で、自分から積極的に人と関わる力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生や友達と関わり合いながら活動できる環境を整える。</li> <li>話が伝わってうれしい、相手の話が分かって楽しいと思える経験を積めるように多くの伝え合う場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の状況に応じて、気持ちを言葉にしたり、言葉を付け加えたりなどして、幼児同士の話が伝わり合うように支援する。</li> <li>その場でのやりとりを大切にしながら、伝え合う楽しさが実感できるような確かな言い方を知らせる。</li> </ul>
小学部	社会常識や礼儀を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶等のマナーや集団行動に必要なルールを身に付けるために、行事や交流及び共同学習、校外学習等の場面に有効に活用する。</li> <li>懇談や学級通信等を通して、家庭との連携を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害特性や発達段階に応じた指導を行う。</li> <li>児童の様子を部全体で把握し、認め励ます指導を行う。</li> <li>家庭との連携を密にし、児童の成果や課題を共有する。</li> </ul>
中学部	中学生としての自覚を促し、学びの態度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な授業規律を重視し、授業に前向きな姿勢で取り組めるようにする。</li> <li>授業の月目標は学級会で生徒が話し合っで決定し、振り返りを行い次に生かす。</li> <li>課題や授業の予習復習の取り組み方を具体的に指導し、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業者が共通の指導意識をもち、継続した指導をする。</li> <li>生徒が主体的に考え、達成感をもって取り組めるように配慮する。</li> <li>課題の提出状況や学習の様子を分かりやすく保護者に伝え、連携をとって進める。</li> </ul>
高等部	卒業後の生活を見据え、挨拶を基本とした社会性や学ぶ姿勢の基礎を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活全般を進路指導と捉えて挨拶・マナー指導及び学習指導を行い、時機を見て評価を行いながら改善に努める。</li> <li>生徒の課題提出状況や考査の結果等の学習状況について、高等部の全職員及び家庭が情報を共有し、学習習慣の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や施設、大学などから得た情報を、生徒のニーズに合わせて具体的に生徒及び保護者に提示する。</li> <li>進路実現に向けた課題やその解決に向けての方策を、生徒、保護者、学校が話し合いの基で共有できるようにする。</li> </ul>
総務部	幼児児童生徒、保護者などへの学校活動等の情報発信の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物の内容、掲示場所、掲示期間などの更新を適宜行い、幼児児童生徒が情報を得られるような掲示の仕方を工夫する。</li> <li>学校の取組に関わる掲示を強調するなど、最新の学校の状況が伝わるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員や幼児児童生徒が目出しやすい場所に、伝えたい情報と見る人が知りたいと思われる情報を検討しながら掲示する。行事写真や行事の紹介記事等を適宜掲示する。</li> </ul>
教務部	学習内容の理解と定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の導入で、前時までの学習内容の振り返りや本時の目標を明確に伝えることができる工夫をする。</li> <li>授業の整理(まとめ)で、本時の学習内容の理解を確認することができるように工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害特性や発達段階等、個々の実態に応じた発問や教材等を提示する。</li> </ul>
生徒指導部	いじめがなく思いやりのある人間関係の育成を図る。災害時に主体的に行動する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なアンケート調査、相談を実施し、いじめ防止の意識を高める。</li> <li>防災、災害安全の学習を充実し、訓練の非公開実施など工夫することで、児童生徒が自ら考え、命を守る行動を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに特化せず、生活全般の調査を実施し、子どもたちの小さな変化やサインを見逃さないよう留意する。</li> <li>防災訓練の事前学習で自分の行動を考え、事後学習で行動を振り返り、命を守る行動を身に付けることにつなげる。</li> </ul>
保健体育部	健康的な生活を送るための実践力の向上を図る。 学校美化活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健、食育だよりを通じて、健康的な生活を送るための知識を広める。</li> <li>部朝会等の集団活動や検診等の機会を活用し、生活状況の情報の収集や、実生活に生きる指導、助言を行う。</li> <li>美化活動の取組状況を、保健だよりや集会等を活用して発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害特性や発達段階に応じた支援ができるよう、各たよりを活用した情報の発信、職員間の連携を密にした情報の共有に務める。</li> <li>各部のよい取組を知ることで、学校全体で協力しようとする意識の向上につなげる。</li> </ul>
進路指	幼児児童生徒の社会的	進路だよりや進路講話など、進路に関する	幼児児童生徒の発達段階や障害特性に合った情報

導部	・職業的自立を目指したキャリア教育の推進を図る。	る情報を発信する機会を増やす。 ・担任や家庭、関係機関との連携を密にする。	提供ができるよう、情報発信の内容や方法を工夫する。 ・関係機関と学校や家庭をつなぐ役割を担う。日々の指導に生かせるように、進路に関わる情報を発信する。
自立活動支援部	幼児児童生徒の自立を目指し、自立活動における授業内容の充実を図る。	・自立活動研修では、豊教育の専門的な指導ができるような内容を取り上げる。 ・自活だより「でんでんむし」や掲示等で自立活動に関する情報を発信する。	・多くの職員が研修に参加できるように、周知徹底する。 ・授業で活用できるような内容を取り入れ、紙面や掲示の方法を工夫をする。
研究研修部	授業研究の充実に努め、授業における技量を高める。	・部や研究グループに分かれ、話し合いや情報交換を行うことで、授業改善に生かす。 ・全員が2年に1回研究授業、授業検討会を行うよう推進する。	・研究グループで幼児児童生徒の実態把握、授業の目標とその手だて、授業展開などを話し合い、授業実践を行う。 ・授業検討会での話し合いを深められるようにするために、授業の視点を示す。
情報図書部	情報機器を活用できるスキルを高め授業等に生かす。  読書啓発運動を推進する。	・情報視聴覚だよりを発行したり、研修会を開いたりして、職員のニーズにあった情報を発信する。 ・児童生徒から読書週間のテーマを募集、設定する。図書館だよりを発行して幼児児童生徒が本に興味をもち、図書室に足を運ぶように啓発する。	・外部で受講した研修報告を含め、授業や校務に生かせる知識や技術の情報を分かりやすく紙面で提供する。 ・各部の実情に合わせた読書週間、啓発運動を実施する。新着本や教師、児童生徒からお勧めの本を紹介し、本に興味をもてるようにする。
センター的機能部	関係諸機関(地域の学校、幼稚園・保育園、市町役場、医療・保健センター)や保護者との連携を深め、支援の充実を図る。	情報交換の機会を可能な限り設定したり、資料を活用したりして支援の維持と充実を図る。	・相談に具体的に対応できるよう研修を積み、専門性を高めたり、資料を刷新したりして支援の維持と充実を図る。 ・指導記録や保護者懇談を通じて情報交換につとめ連携を密に行うようにする。
寮務部	自分から進んで挨拶ができ、正しい言葉遣いで報告やお礼を言える舎生を育てる。	・舎生一人一人に具体的な目標を設定し、指導を進める。 ・舎生会活動を通して、誰に対しても挨拶や正しい言葉遣いができるように意識を高める。舎生が自分から報告やお礼を言える雰囲気を作る	・集団での指導とともに、個別での指導を行う。舎生一人一人が理解できる目標を設定し、場に応じた指導を行う。 ・舎生会において、舎生が挨拶や言葉遣いについて、自分の考えを発表し、お互いに学び合う機会を設ける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①幼児児童生徒一人一人の障害特性に配慮し、専門性の高い指導・支援を行うことができたか。 ②保護者や地域、関係機関との連携を密にし、学校全体の教育力を向上させることができたか。 ③組織的で系統的な発達段階に応じたキャリア教育を行うことができたか。 ④ゆとりをもって子どもたちの指導に当たれるよう業務内容の見直し効率化を図ることができたか。		

## 平成30年度の学校評価

### ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	①幼児児童生徒の発達段階と障害特性に応じた専門性の高い指導・支援を実践する。 ②保護者や地域、関係機関等との連携を強化し、安全で安心できる教育環境の整備を推進する。 ③自立と社会参加に向けた組織的、系統的なキャリア教育を推進する。 ④教育活動の一層の充実と教職員の多忙化解消に向けて業務改善と精選に取り組む。		
期(档)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚園	身近な人と関わる中で、経験したことや考えたことを伝えたり、聞いたりし、伝え合いを楽しむ。	・先生や友達と言葉を交わすことができる雰囲気や関係の中で、伝えたいような体験ができるよう環境を工夫する。 ・遊びを一緒に進めるために相手の気持ちや行動を理解するよう言葉掛けを工夫する。	幼児は楽しく学校に通い活動している。遊びや活動の環境を整え、言葉掛けを工夫することで関わりの楽しさを経験している。今後、保護者と共通理解を図りながら伝え合いの楽しさを味わえるようにしていく。
小学部	社会常識や礼儀を身に付ける。	・規範意識向上のために、交流及び共同学習、校外での社会体験的活動等の場を有効に活用する。 ・懇談や学級通信等を通して、家庭との連携を	社会自立に向けて、挨拶や小学部段階での必要なマナーやルールを継続して指導をした結果、児童の規範意識が向上した。今後も家庭との連携をとり、毎日元気で楽しく学校に通学する児童の規範

		密にする。	意識の向上を目指していく。
中学部	中学生としての自覚を促し、学びの態度の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会で毎月の授業目標を決定することで、基本的な授業規律を重視し、前向きな姿勢で授業に取り組めるようにする。</li> <li>・目標を見やすい場所に掲示することで、授業者が共通の指導意識をもって指導を継続できるようにする。</li> </ul>	各学級で生徒が月ごとに授業目標を話し合って決めることで、目標を意識して授業に取り組むことができ、全体的によい態度で学習に臨めるようになってきた。今後も職員の共通理解の基に生徒の学びの態度の向上を図り、基礎学力の伸長・定着を目指す。
高等部	卒業後の生活を見据え、挨拶を基本とした社会性や学ぶ姿勢の基礎を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活全般を進路指導と捉え、挨拶・マナー指導及び学習指導を行い、定期的に評価を行いながら改善に努める。</li> <li>・生徒の課題提出状況や考査の結果等の学習状況について高等部の全職員及び家庭が情報を共有し、学習習慣の定着を図る。</li> </ul>	マナーやルールの指導について、また、生徒に合わせた分かりやすい授業について、保護者・職員ともに成果を感じている結果となった。今後も保護者と協力して、スマートフォンの使い方等、社会的なマナー意識の向上を目指す。
総務部	幼児児童生徒、保護者などへの学校活動等の情報発信の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物の内容を精選し、掲示場所、掲示期間などの更新を適宜行い、幼児児童生徒が情報を得られるような掲示の仕方を工夫する。</li> <li>・学校の取り組みに関わる掲示を強調するなど、最新の学校の状況が伝わるようにする。</li> </ul>	掲示物を精選し、幼児児童生徒の活躍や学校の取組に関する情報を発信することができた。以前と比べ、各部での掲示物が充実してきており、掲示物を授業や日常会話に取り上げた職員も多い。今後も、学校関係の情報など掲示環境を整え、活用の場をつくっていく。
教務部	学習内容の理解と定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で、前時までの学習内容の振り返りや本時の目標を明確に伝えることができる工夫をする。</li> <li>・授業の整理(まとめ)で、本時の学習内容の理解を確認することができるように工夫する。</li> </ul>	分かりやすく目標を提示したり、授業のまとめの工夫をしたりすることにより、幼児児童生徒の学習意欲や学習の理解度の向上につながった。導入やまとめの工夫は校内研究の手だてと重なるため授業実践を重ね、授業改善につなげたい。
生徒指導部	いじめがなく思いやりのある人間関係の育成を図る。 災害時に主体的に行動する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なアンケート調査、相談を実施し、いじめ防止の意識を高める。</li> <li>・防災、災害安全の学習を充実し、訓練を非公開での実施など工夫をすることで、児童生徒が自ら考え、命を守る行動を身に付ける。</li> </ul>	アンケート調査や児童生徒主体の活動などによって、いじめ防止の意識が高まった。来年度も継続して取り組み、さらなる意識の向上を目指す。災害時の対応では、来年度も訓練日時の非公表実施や防災学習の充実によって、児童生徒の主体的に行動しようとする意識を高めていきたい。
保健体育部	心身共に健康的な生活を送るための意識の向上を図る。 学校美化活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だよりや食育だより、部朝会等を活用し、健康に関する知識を広める。</li> <li>・日常の清掃活動を通して、学習環境を整える。</li> <li>・美化活動の取組状況を、保健だよりや集会等を活用して発信する。</li> </ul>	配布文書や集団指導の場を通じて毎日の食事や歯みがきなど、さまざまな面から健康についての情報を発信し、理解を深めることができた。美化活動では、各部の取組をより伝え合うことでお互いに高め合える、認め合える環境をつくりたい。
進路指導部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関する情報を発信し、全体・個別指導を通して、生徒や保護者が必要な情報を選択できるよう支援する。</li> <li>・職員同士や家庭、関係機関との連携を密にしながら情報を共有する。</li> </ul>	進路だよりは卒業後に関わる情報を発信することで、進路を考える際に活用することができた。また、今後は、各部で育成したい力を具体的に示し、職員同士や保護者と話し合いを深め、必要な力を身に付けていくことを目指す。
自立活動支援部	幼児児童生徒の自立を目指し、自立活動における授業内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動研修会を設定し、豊学校に必要な自立活動に関する内容を取り上げる。</li> <li>・自立活動支援部だより「でんでんむし」や掲示等で自立活動に関する情報を発信する。</li> </ul>	自立活動研修会では、研修の内容や進め方など、職員のニーズに合わせて行うことができた。自立活動支援部だよりや掲示版等で年間を通して、自立活動に関する情報を発信できた。今後も紙面や掲示の工夫を図りながら情報提供を行っていく。
研究研修部	授業研究の充実に努め、授業における技量を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部や研究グループに分かれ、話し合いや情報交換を行うことで、授業改善に生かす。</li> <li>・全員が2年に1回研究授業、授業検討会を行うよう推進する。</li> </ul>	分かる授業づくりを目指し、授業の目標と手だて、授業展開などを話し合い、授業実践を行った。研究授業や授業検討会を実施し、実践を深めることができた。成果と課題を来年度の授業実践に生かし、授業における技量をさらに高めたい。
情報図書部	情報機器を活用できるスキルを高め授業等に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のニーズにあった情報視聴覚だよりを発行したり、研修会を開いたりして、機器活用に</li> </ul>	情報視聴覚だよりの発行に限らず、あらゆる方法で機器活用に関する情報提供した。今後も誰もが

	生かす。 読書啓発運動を推進する。	関する情報を発信する。 ・児童生徒が興味をもてる読書週間のテーマの設定、図書館だよりを発行して本に興味をもち、図書室へ足を運ぶように啓発する。	分かる情報提供を心掛けたい。図書だよりを通じて幼児児童生徒対象の本の選定を行った。選定した本を紹介しながら、幼児児童生徒が足を運びやすい図書室を目指したい。
センタ ー的機 能部	関係諸機関（地域の学校、幼稚園・保育園、市町役場、医療・保健センター）や保護者との連携を深め、支援の充実を図る。	情報交換の機会を可能な限り設定したり資料を活用したりして、支援の充実を図る。	通級指導では、指導対象児童生徒の在籍校の先生方や保護者に対して分かりやすく情報提供をすることができた。乳幼児教育相談でも保護者に対して分かりやすく情報提供することができた。連携を密にし、信頼関係を築いて直面する問題やニーズに応じた情報提供を目指していきたい。
寮務部	自分から進んで挨拶ができ、正しい言葉遣いで報告やお礼を言える舎生を育てる。	・舎生一人一人の個別の目標を設定し、指導を進める。 ・舎生会を通して、挨拶や正しい言葉遣いに対する意識を高め、舎生が自分から報告やお礼を言う雰囲気をつくる。	挨拶の大切さや正しい言葉遣いについて、舎生会を通して指導や個別に指導を行った。その結果、舎生の挨拶や言葉遣いに対する意識が高まってきている。今後は誰に対しても、挨拶や正しい言葉遣いができるように、指導を継続していきたい。
総合評価	100%の保護者から回答をいただくことができた。本校の教育活動全般に対する保護者の関心の高さを示す結果となった。アンケート項目は経年変化を比較するため昨年度と同様に実施し、概ね高い評価をいただいた。障害に応じた専門的な指導・支援が求められているので教職員の研修を充実し、さまざまな教育的ニーズに応えられるようにしていく。子どもたちが毎日楽しく通える学校とは「授業が分かりやすく」「いじめがなく」「環境が整備された」安全で安心な場所であるということが、普段の様子やアンケート結果により再認識された。よりよい学校づくりを目指し、今後も家庭と学校が連携してしていきたい。		

## イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	①教職員が子どもたち一人一人の気持ちにより添い、丁寧な指導・支援ができたか。 ②積極的に情報発信を行い、保護者や地域、関係諸機関との連携を深めることができたか。
自己評価結果について	・「おさんは、毎日楽しく学校に通っている」という項目において90%以上の保護者からよい評価をいただいた。全ての子どもたちが「今日も学校に行きたい」と思える、明るく活気ある学校づくりを目指したい。
今後の改善方策について	・教職員が研修に励み、聾教育を始め特別支援教育の専門性を高め、幼児児童生徒一人一人の実態に応じた丁寧な指導を心がける。 ・懇談等の特別な機会に囚われず、折に触れて学校での様子や取組状況を伝え、学校と家庭、地域が協働して子どもを育てていることが実感できるようにする。 ・地域や有識者など外部の助言をいただきながら、よりよい学校づくりを目指す。
その他（学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望）	・子どもたちが社会に出てから困らないように在学中に健聴者とのコミュニケーション方法について学べる機会を設けてほしい。 ・農業体験など地域をあげて学校を応援していきたい。 ・聾学校として大事にしてきた「言葉の力」や「学力」を育てること以外に「気持ち」を育てることを一緒に考えていきたい。
学校関係者評価委員会の構 成及び評価時期	（構成）西三河聴覚障害者親の会会長、同窓会長、地区総代、学識経験者、PTA会長・副会長、PTA常任理事（幼）、校長、教頭、事務長、部主事 （評価時期）第1回2学期、第2回3学期